

長谷川 望 牧師

- \* 主イエスが十字架にかかれる週の日曜日、過越の祭りで大勢の人がエルサレムに来ていた。彼らはなつめやしの枝をもってイエスを迎えた。ラザロを復活させた方に興味が高まっていたからである。  
「ホサナ。祝福あれ、主の御名によって来られる方に。イスラエルの王に。」(ヨハネ12:12)「ホサナ」とは文字通りは「救ってください」という意味だが、「バンザイ」に近い、喜びをあらわす感嘆詞である。
- \* イエスはロバの子に乗ってエルサレムに入られた。「イスラエルの王」であれば、馬に乗って勇猛果敢に入場するのが普通だが、イエスはご自分でロバの子を用意しておられて、それに乗って来られた。このイエスの入場は旧約聖書ゼカリヤ書にあるみことばの成就であった。「娘シオンよ、大いに喜べ。娘エルサレムよ、喜び叫べ。見よ、あなたの王があなたのところに来る。義なる者で、勝利を得、柔和な者で、ろばに乗って。雌ろばの子である、ろばに乗って。わたしは戦車をエフライムから、軍馬をエルサレムから絶えさせる。戦いの弓も絶たれる。彼は諸国の民に平和を告げ、その支配は海から海へ、大河から地の果てに至る。  
(ゼカリヤ9:9~10) この「イスラエルの王」キリストは、全世界から兵器、武器をなくし、まことの平和をもたらす方である。イエスは「神の国の王」であり、「王の中の王」であり、世をさばき、愛をもって平和のうちに治められる。
- \* 「これらのことは、初め弟子たちには分からなかった。しかし、イエスが栄光を受けられた後、これがイエスについて書かれていたことで、それを人々がイエスに行ったのだと、彼らは思い起こした。」(ヨハネ12:16)「イエスの栄光」すなわち十字架と復活である。聖書のテーマは「救い」であり、その中心的出来事は十字架と復活である。これを信じて読んだときに、聖書のことがよくわかるようになる。